

(様式1)

令和4年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	① 自律の精神で自己の成長を図る生徒の育成 ② 誠実、謙虚が身についた品性ある生徒の育成 ③ 進取の気象で高い目標に挑戦する生徒の育成
------------	---

(2) 現状と課題	「校訓『自律 誠実 進取』のもと、生徒の知性と品性の涵養に努め、保護者・地域社会から信頼される教育活動に努める」を学校経営方針とし、(3)の重点目標に沿って教育活動に取り組んでいる。本校生徒の特徴として、おとなしくまじめな生徒が多い一方で、やや積極性に欠け、困難を避けたがる傾向がみられる。よって、学習活動、特別活動、部活動等、何事にも積極的に取り組み、困難に直面してもそれに負けない生徒を育成したい。
-----------	---

(3) 重点目標	1 学習指導の充実 (深い学びにつながる授業の推進 研修体制の充実 円滑な校務運営)
	2 生徒指導の充実 (基本的生活習慣の確立 いじめ・問題行動の未然防止 安全で安心できる学校環境の確立 特別活動・部活動の充実)
	3 進路指導の充実 (キャリア教育の推進 進路指導体制の確立 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、助言・指導と情報提供)
	4 リスクマネジメント (生徒の心身の健康の保持推進 教育環境の整備と美化の推進 学校安全の推進)

(4) 結果の公表	学校ホームページならびに文書
-----------	----------------

学校整理番号	8
学 校 名	青森県立弘前中央高等学校
全日制の課程	本校

自己評価実施日	令和 4 年 12月 15日(木)
学校関係者評価実施日	令和 5 年 2月 4日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 5名 保護者代表 (PTA会長) 1名、同窓会代表 1名、 地域有識者 1名、後援会監事 1名、地域学識者 1名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	深い学びにつながる授業の推進について 研修体制の充実について 円滑な校務運営について	①互見授業、研究授業、研修等②家庭学習の記録(未来手帳、クラスシー)等の活用③他分掌との連携による学校行事の円滑な運営	ICT関係の先進校視察後、研究授業を実施して校内に還元した他、教科の研究授業や外部への公開授業を実施し、授業改善に向けた体制は充実していた。昨年の課題であったHPによる情報発信は、SSSの協力の下で実施できた。	B	タブレット等の機器を用いて、双方向の授業を行う時勢であり、ICT活用の取り組みを進めて欲しい。図書館を施設無しで生徒が自由に利用できることで、学習に対して生徒の自主性が育まれ、教育効果が上がることに繋がっている。	新学習指導要領実施2年目を迎え、観点別評価による学習評価を見直し、確立する。統合型校務支援システムを円滑に運用する。家庭学習でのタブレット活用を進める。保護者に対する給付奨学金制度や貸与奨学金制度をICTで周知する。
2	基本的生活習慣の確立 いじめ・問題行動の未然防止 安全で安心できる学校環境の確立 特別活動・部活動の充実	①保護者と連携した指導、委員会による挨拶運動②声かけ、面談、アンケート等による未然防止③スクールカウンセラー・いじめ防止専門員の支援④特別活動、部活動への積極的な参加を促し、活性化に努めた。	挨拶運動を計画通り実施した。生徒はコロナ禍であっても最大限行事を実施し、HR活動、学校行事、部活動等に積極的に取り組んだ。アセス、学校アンケートを実施し、気になる生徒の面談は担任と、そして必要に応じてSCとも実施し、生徒支援に努めた。校長の意向である部活動の平日1日、週末1日を休日に充てる方針を推進した。	B	校則については、生徒の意見を聞きながら是非全校体制で見直しを進め、またスマホ利用も、教員及び生徒各々が歩み寄れる校則を作って欲しい。遅刻反省文やスマホの一次預かりの廃止については賛同する。生徒と保護者がどこまで向き合うことができるか、様々な面での課題となる。	生徒心得改定に向けて生徒会、教職員での話し合いで決めたことを、次年度は生徒や保護者に周知する。校内でのスマホの使用制限について、生徒と対話を進めていく。中央高校生らしさを生徒・教員と追究し、生徒が社会貢献できる有為な人材となる探究活動や学校行事を精選し、実行する。
3	連携した指導体制の確立 キャリア教育の充実 生徒・保護者に対する進路意識の高揚、進路選択へ向けた助言・指導、情報提供	①講演等による進路意識の高揚②学年、教科、分掌との連携③各社・大学の進路研究会や説明会への積極的参加	志望理由や面接、集団討論など本校の個別指導体制を活用し、柔軟に対応した。キャリア教育の一環として、1年生職業人講話、2年生模擬講義、1・2年生対象の進路講話を実施した。学年進路係、進路指導部との定例会議を通じて、お互いの課題を共有して進路行事を円滑に実施した。	B	3年間を俯瞰した進路指導を続けているようですので、今後も継続して欲しい。推薦や総合型での受験に対する指導は全教職員の体制でお願いしたい。学年段階で必要となる情報提供を、ICT活用等も含め、今後もお願いしたい。	学力テストの意義については、再考が必要である。保護者への進路についての情報は、進路通信をはじめ各学年段階で必要となるものを精選し、ICTを活用して提供する。授業の充実・改善について、デジタル教科書の導入と活用、ICTを活用した授業研究が課題である。
4	生徒の心身の健康の保持推進 教育環境の整備と美化の推進 学校安全の推進	①校舎の環境整備の徹底②校内外の施設設備の安全点検、避難訓練の徹底③衛生委員会、学校保健委員会の実施、外部機関との連携	保健室来室者に対し、心理的要因が見られる場合は、学年や保護者、関係機関と協働して継続的に支援した。AEDを使用した心肺蘇生法ができる人材育成と命を大切にする心の教育を推進した。コロナ対策・対応を、迅速に行うことができた。	B	進路棟の3年生の教室は、建物の老朽化もあり寒く、対策としては今後少しでも寒さを緩和できるように、県に強く働きかけて欲しい。安全・安心な学校生活を実現する取り組みを継続してお願いしたい。	安全、安心な学校にするために全教職員で危機管理に取り組む。コロナ禍になり、心の問題で保健室来室者が増えている傾向にあり、SCやSSWと随時連携し、引き続き支援する。生徒・教職員の心身の健康に留意していく。

(11) 総括	知性と品性を備え、社会人として自立できる生徒の育成を目指して教育活動に取り組んでいる。コロナ禍で制限はあるものの、学習活動及び学校行事、部活動に積極的に取り組み、文武両道を果たしている。今年度は生徒一人一台の端末が配付され、前年度の試行から本格的な活用が本校としても大きなテーマになり、全教員が試行錯誤しながら校内・外の研修を通して授業改善に努めた大きな変化のあった一年であった。保護者に対する情報発信は今後も大きなテーマとなる。自立した生徒の育成に向け、柱となる探究活動をより充実したものにし、分掌間、教職員間の連携を円滑に行い、保護者の理解と協力のもとで生徒の生きる力を高めていきたい。
---------	---